

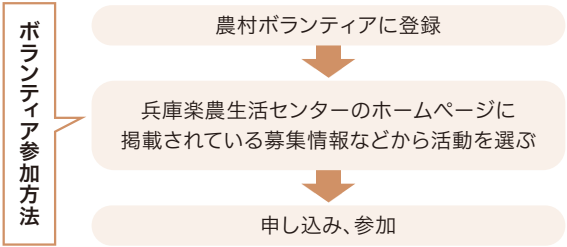
農村ボランティア 自然の中で交流しませんか

県では、過疎化や高齢化により維持が難しくなっている集落を「ふるさとむら」に登録し、住民が都市部の人たちと交流しながら地域を活性させる農村ボランティア事業を進めています。現在30地区あり、それぞれ収穫作業や里山整備などのボランティアを募集しています。豊かな自然の中で現地の人たちと手を携え、兵庫の農村を盛り上げていきませんか。((公社)ひょうご農林機構)

☎(公社)ひょうご農林機構
☎078-361-8131
☎078-361-8128



淡路市五斗長地区でのタマネギを収穫。



年齢や職業の垣根を越えて
交流できるのも喜びです

曾地中生産組合ふるさとむら部会
金谷久美子さん(丹波篠山市)

曾地中地区では40年ほど前から本格的に黒大豆を生産してきました。高齢化で農作業が負担になっていた13年前、農村ボランティア事業を知り「ふるさとむら」に登録、ボランティアの募集を始めました。毎年6月の種まきから11月の葉落としまで年15回、11軒の農家が作業をお願いしています。参加者は毎回15人ほど。神戸市在住者を中心に20代～80代と年齢層は幅広く、大阪市や京都市から来てくださる人もいます。1日5時間の作業の合間におしゃべりをしたり、冬にみそ造りなどのイベントと一緒に楽しんだり、年齢や職業の垣根を越えてさまざまな人たちと心通わせられるのも喜びの一つです。



黒枝豆の収穫の様子。

阪神・淡路大震災から30年の今年、県では震災の教訓を未来につなぐ多彩な事業を実施しています。9月の催しは、大阪・関西万博の「テーマウィーク」に合わせて展開する「ひょうごEXPO week」の一つ「創造的復興ウィーク」として実施。これを機に、防災と復興について改めて考えてみませんか。(県防災支援課)

震災30年特別企画2025
「震災伝承の30年(これまで)と未来(これから) -再検証! ひとぼう 1.17 震災伝承コンテンツ-」

特撮美術監督の三池敏夫さんによる阪神・淡路大震災の再現映像、被災地のジオラマ模型など、開館以来上映している映像作品や展示物を詳しく解説。

📅11月3日(月)📅まで
📍人と防災未来センター(神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2)
🎫一般650円、大学生450円、70歳以上300円、高校生以下無料

ALL HAT2025(第10回HAT神戸防災訓練)
消防のデモンストレーション訓練をはじめ、応急給水訓練体験、防災に関する展示などを通し、防災について学びます。無料。

📅9月20日(土)10時～ 📍同センター敷地内

📍同センター ☎078-262-5050 ☎078-262-5055

震災30年に
防災と復興を考える



情緒あふれる酒蔵通りが 景観形成重点区域に

江戸時代に城下町として栄えた宍粟市山崎町山崎地区。東西約200mの酒蔵通りには、1768(明和5)年に創業し現在も営業を続ける老松酒造などの造り酒屋や元しょうゆ蔵を活用した宿泊施設の中門前屋等、江戸時代の建物が並びます。6月には、通りの一角が県内3例目となる県の景観形成重点区域に指定されました。元酒屋のカフェである本家門前屋前からは、古いまち並みと自然豊かな最上山を望むことができます。(県都市政策課)

📍県都市政策課
☎078-362-9299 ☎078-362-9487



老松酒造の
もろみ3種セットを
5人にプレゼント

「酒蔵もろみ」(130g)540円、
「酒蔵柚子もろみ」(130g)572円、
「酒蔵山椒もろみ」(130g)572円
応募方法は7面へ



直売所やレストランを備えた老松酒造。

「ひょうご備蓄キャンペーン」を実施します!



そなえて食べよう!
たくわえよう!

ひょうご備蓄キャンペーン
マスコット「びちく」

